

# 動物 プランクトン

光合成をしない  
なかま

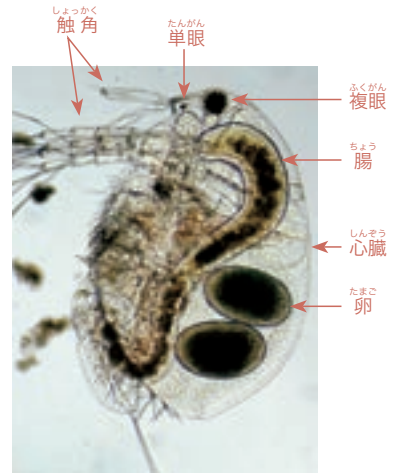
## 体のつくりから見た動物プランクトンの特徴

この図鑑では、動物プランクトンとして、<sup>たんさいぼうせいぶつ</sup>単細胞生物のアメーバから多細胞生物のミジンコなど<sup>せつそく</sup>節足動物までをとり上げています。これら動物プランクトンに共通する特徴はなんでしょうか？ それは、動物プランクトンが植物プランクトンのように<sup>こうごうせい</sup>光合成をしないということです。動物プランクトンは、植物プランクトンのように<sup>えい</sup>必要な栄養物質を自分で作り出すことができません。そこで、つぎのようなしくみが必要になってきます。

- ① エサを求めて動くしくみ
- ② エサを体内に取り込むしくみ
- ③ 消化できないものや、体内のいらぬものを捨てるしくみ
- ④ 子孫を増やすしくみ

動物プランクトンを観察するときは、種類を調べるだけでなく、ぜひ、①～④についても調べてみましょう。

その一例として、ケブカミジンコの写真をのせました。1mmほどの大きさの体の中に、眼や心臓、腸などがしっかりとあることがわかります。それぞれの<sup>きかん</sup>器官がどんな働きをするか調べてみましょう。



ケブカミジンコの体

## むずかしい動物プランクトンの見分け方

(動物プランクトンの形は変化しやすい)

<sup>たんさいぼう</sup>単細胞の<sup>げんせい</sup>原生動物は、種類が非常に多いので、この図鑑だけでは区別ができない場合があります。また、多細胞のワムシのなかまやミジンコのなかまも、環境によって形が変化することがあるため、種類を特定するときにこまることがあります。とくに、とげの長さは同じ種類であっても、まったくないものからとても長いものまであります。このように変化がはげしいので注意が必要です。カブトミジンコでは、頭のとげがとがっているはずのものが、とがっていないなかったり、丸くなったりするなどの変化も起こります。これらの変化は、敵に<sup>おそ</sup>襲われにくくするためと考えられています。このように形の変化がはげしい動物プランクトンですから、いつどんな変化をするのかを調べてみるのも奥の深い研究テーマの1つになります。

